

時間割コード	KB1401	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T(機械システム)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	李 艶栄, 楊 子江, 城間 直司				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ①自律的な学生生活を、主体性に行うことができる。
- ②自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識を俯瞰的に理解できる。
- ③コミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身に付け、協働的な課題解決ができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。

第2回：高校から大学への「学びの転換」
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。

第5回：図書館の活用
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。

第6回：エネルギー機械技術(1、講義、課題提示)

第7回：エネルギー機械技術(2、講義に関するグループ討議)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。

第8回：エネルギー機械技術(3、討議結果の発表と質疑応答)
(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。

第9回：設計製造技術(1、講義、課題提示)

第10回：設計製造技術(2、講義に関するグループ討議)

(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。

第11回：設計製造技術（3、討議結果の発表と質疑応答）

(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。

第12回：情報機械技術（1、講義、課題提示）

第13回：情報機械技術（2、講義に関するグループ討議）

(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対しグループ討議を行う。

第14回：情報機械技術（3、討議結果の発表と質疑応答）

(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。

第15回：なるほど技術者講演会（企業講師による講義、業務・研究開発内容等の紹介）

【授業外学修】

(全学共通部分について)教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティビティ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・commonsなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

後半部分の講義では、事前に関連キーワードを調査しておくことと理解しやすい。講義に関するグループ討議については、課題内容を理解して十分な調査を行い、自らの考えをまとめてから臨むこと。討議結果の発表と質疑応答のプレゼンテーションでは、前週の討議の結果をまとめてから資料を作成し、発表練習を行って時間内での分かりやすい発表を心がける。また提出課題やレポートには真剣に取り組むこと。

履修上の注意/Notes

後半部分の同じテーマの講義、グループ討議、発表および質疑応答は、一連の流れで進行するため、欠席するとその前後の授業内容を理解できない。またグループ討議、発表資料作成などには積極的に参加すること。30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

オフィス・アワー：教員は普段日立キャンパスにいるので、火曜日5講時終了後に面談が可能である。

情報端末の活用

課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：思考力・判断力・表現力の重要性を十分に理解し、主体的な学修の習慣を身につけている。

A：思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけている。

B：思考力・判断力・表現力の重要性を概ね理解し、主体的な学修の習慣を身につけている。

C：思考力・判断力・表現力の重要性について最低限の理解をしており、主体的な学修の習慣を身につけている。

D：思考力・判断力・表現力の重要性が理解できておらず、主体的な学修の習慣を身につけていない。

成績の評価方法/Grading

(全学共通部分について) 期末試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した議事録などの資料（8回程度）（50%）、②課題レポート（1回）（20%）、③プレゼンテーション（3回）（30%）により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
著者名	茨城大学全学教育機構
出版社	
出版年	2019
ISBN	

教材費	
-----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング -大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原 恵子, ほか著。
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	
教材費	1296

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ—初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明、ほか著。
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	
教材費	2052

参考書3

書名	知へのステップ 第4版 -大学生からのスタディ・スキルズ
著者名	学習技術研究会
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	
教材費	1944

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	△
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB1402	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T(電気電子システム)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	島影 尚, 山田 光宏, 青野 友祐, 鶴殿 治彦, 辻 龍介				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

電気電子システム工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回から第5回は、一クラス講義とする。第6回以降は、5班に分かれての講義とする。

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任

アクティブ・ラーニング：自己紹介を通じて、個人それぞれ様々な考え方を知り、議論を行う。

第2回：高校から大学への「学びの転換」

アクティブ・ラーニング：「4年間の履修計画」、「グローバル化する社会において仕事と人生のキャリアを見据えて学ぶ」、「学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか」などのテーマでディスカッションを行う。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法

アクティブ・ラーニング：「効果的なディスカッションについて」、「効果的なプレゼンテーションについて」などのテーマでディスカッションを行う。

第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法

アクティブ・ラーニング：「効果的な、論文の読み方」、「効果的なノートの取り方」などのテーマでディスカッションを行う。

第5回：図書館の活用

全学教育機構により、図書館において、図書館ガイダンスを行う。その後、研究活用に関わる論文検索などについて講義を行う。

第6回以降で、各班に分かれて、決められたトピックスについて、調査、理解、口頭発表と質疑応答を行い、技術者としての能力を養う。5つのテーマについて調査し発表を行う。発表内容について主体的に自分で理解することが必要となる。発表内容に関連した詳細についても質疑応答できるようにすること。学生同士が発表者に質疑を行い、理解度を確認する。また調査内容はレポートとして提出することを課する。

第6回：「テーマ1」に関する調査

第7回：「テーマ1」に関する発表、レポート提出

アクティブ・ラーニング：各テーマに対する、発表と、質疑応答を行う。

第8回：「テーマ2」に関する調査

第9回：「テーマ2」に関する発表、レポート提出

アクティブ・ラーニング：各テーマに対する、発表と、質疑応答を行う。

第10回：「テーマ3」に関する調査

第11回：「テーマ3」に関する発表、レポート提出

アクティブ・ラーニング：各テーマに対する、発表と、質疑応答を行う。

第12回：「テーマ4」に関する調査

第13回：「テーマ4」に関する発表、レポート提出

アクティブ・ラーニング：各テーマに対する、発表と、質疑応答を行う。

第14回：「テーマ5」に関する調査

第15回：「テーマ5」に関する発表、レポート提出

【授業外学修】

・第1回から第5回は、「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう-」を用いるので、必ず授業前に一度読んでおくこと。

・第6回以降は、各班での講義となり、プレゼンテーション及びレポートが必須となるので、それぞれの課題のレポートに取り組むこと。

【アクティブ・ラーニング】

・第1回から第4回では、教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。

・第6回以降は各テーマに対する、発表と、質疑応答を行う。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。自己のパソコンおよびプレゼンテーションソフトを使用できる能力が必要となる。図書館、インターネット等を用いて、資料の収集を行なう事。使用する資料には出典を明記する事。ディスカッションが重要な科目であるので、遅刻は減点対象となることがあるので注意すること。質問は授業時間後に対応する。

情報端末の活用

第6回以降は各テーマに対する発表と質疑応答となるため、発表者はPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：与えられた課題に対する優れたレポートが作成でき、わかりやすいプレゼンテーション能力が身についている。

A：与えられた課題に対するレポートが作成でき、わかりやすいプレゼンテーション能力が身についている。

B：与えられた課題に対するレポートが作成でき、プレゼンテーション能力が身についている。

C：与えられた課題に対するレポートが概ね作成でき、プレゼンテーション能力が身についている。

D：与えられた課題に対するレポートが作成できず、プレゼンテーション能力が身につけていない。

成績の評価方法/Grading

第1回から第5回では、授業への取り組み状況（初回に提示する）で評価する。（20%）

第6回以降では、5テーマにわたり担当教員が総合的に採点するが、発表内容と質問に対する応答や質問内容やレポートで判断する。（80%）

期末テストは行わない。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	茨城大学 全学教育機構
出版社	
出版年	2019
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -
著者名	吉原恵子、他著
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	1200

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ - 初年次セミナーワークブック -
著者名	佐藤智明、他著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ - 大学生からのスタディ・スキルズ -
著者名	上村和美、他著
出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○

地域活性化志向	<input type="radio"/>
---------	-----------------------

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1403	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	火5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T(物質科学)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	佐藤 成男, 庄村 康人				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

物質科学工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身に付ける。
- ・自らの専門分野に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身に付ける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任
(プレゼンテーション)「効果的な自己紹介について：口頭による自己紹介」

第2回：高校から大学への「学びの転換」
「4年間の履修計画：卒業後の目標を見据えた履修計画」について説明する。

第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
(ライティング)「話す側、聞く側双方からみた効果的なプレゼンテーション」について、講義中に課されるテーマに対するプレゼン資料を作成する。

第4回：図書館の活用および第3回講義のプレゼン資料を用いたディスカッション
・図書館ガイダンスの説明
・図書館を利用した学習とラーニング・コモンズ
(ディスカッション)第3回講義のプレゼン資料を用いてグループ毎にディスカッションを行う。

第5回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
「学修の手引き」を使用して、レポートの書き方の基礎を解説する。また、剽窃・盗用・捏造・改ざんなど、レポート作成時の不正行為について説明する。

(ディスカッション) メールの書き方を例題として各自メールを作成し、グループ毎にディスカッションを行う。

第6回：学科紹介その1「材料工学プログラム」の紹介とグループ毎にレポート作成

(ディスカッション) 材料工学の社会における役割についてグループ毎にテーマを設定し、ディスカッションを行う。それをもとにレポートを作成する。

第7回：学科紹介その2「応用化学プログラム」の紹介とグループ毎にレポート作成

(ディスカッション) 応用化学の社会における役割についてグループ毎にテーマを設定し、ディスカッションを行う。それをもとにレポートを作成する。

第8回：学科紹介その3「生命工学プログラム」の紹介とグループ毎にレポート作成

(ディスカッション) 生命工学の社会における役割についてグループ毎にテーマを設定し、ディスカッションを行う。それをもとにレポートを作成する。

第9回：卒業後の自身を見据えた自己分析

(アンケート形式授業、ディスカッション) 自身の特徴の解析から強み、弱みを理解し、レジリエンスを伸ばすポイントを発見する。自己分析の意義についてディスカッションを行う。

第10回：大学院進学ガイダンスと次週以降の発表資料の模範プレゼンの紹介

「模範プレゼン」学科教員2名による模範的なプレゼンテーションを聴講、それらに対する質疑応答

(ディスカッション) グループに分かれてブレインストーミングで発表資料のテーマ候補を複数挙げる。

第11回：「パワーポイントによる発表準備1」

(ディスカッション) グループに分かれてテーマを決定し、役割分担、活動計画を立てる。何故そのテーマを選んだかグループ内でまとめ、全体に対しグループ代表が発表する。

第12回：「パワーポイントによる発表準備2」

(ディスカッション) 選択したテーマについて調べる。またグループ内で話し合い、パワーポイント発表資料の作成を進める。前回からの探求活動の経過についてグループ代表が全体に対し発表する。

第13回：「パワーポイントによる発表準備3」リハーサルを各グループで行う。

(ディスカッション) 各グループで最終資料を完成し、グループ内およびグループ間でリハーサルを行う。それに基づき改善点をディスカッションする。

第14回：「パワーポイントを使って、各課題に対する調査結果や考察の発表（前半のグループ）」

(プレゼンテーション、ディスカッション) グループごと、各テーマについて発表を行う。各グループ5分程度を想定する。

第15回：「パワーポイントを使って、各課題に対する調査結果や考察の発表（後半のグループ）」

(プレゼンテーション、ディスカッション) グループごと、各テーマについて発表を行う。各グループ5分程度を想定する。

【授業外学修】

・授業の性質上、授業時間外の主体的な学習（調査、プレゼン資料作成、レポート執筆など）が必要となるので積極的に予習・復習に取り組むこと。

・『茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－』に目を通して授業を受けるとよい。各回の学習内容は必ず復習し、理解を深めておくこと。

・授業中に行ったディスカッションの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深めるとよい。

・学生同士で情報を共有しながらディカッションすることで効果的な復習となる。復習内容は文書としてまとめるように努めること。

【アクティブ・ラーニング】

・各回、ディスカッション、プレゼンテーション等の学修内容を踏まえた課題の一環として行う。

プレゼンテーション用資料、レポートおよび発表要旨の提出は必須である。また、正当な理由のない遅刻は欠席扱いとする場合があるので注意すること。オフィス・アワーは授業終了後とする。グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。

情報端末の活用

・授業内で資料作成、発表を行う際PCを使用する。このため授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：科学に関するディスカッションの基本的な知識と考え方を十分に理解し、それらについて実践できている。
A：科学に関するディスカッションの基本的な知識と考え方を理解し、さらにそれらについて実践できている。
B：科学に関するディスカッションの基本的な知識と考え方を概ね理解し、さらにそれらについて実践できている。
C：科学に関するディスカッションの基本的な知識と考え方について最低限の理解をしており、さらにそれらについて実践できている。
D：科学に関するディスカッションの基本的な知識と考え方が理解できておらず、さらにそれらについての実践ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載したレポート(50%)、②プレゼンテーション(50%)により行う。

教科書/Textbook(s)

備考	「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -」
----	-----------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	大学生のための知的技法入門
著者名	佐藤望編著；湯川武，横山千晶，近藤明彦著
出版社	慶應義塾大学出版会
出版年	2012
ISBN	978-4766419603
教材費	

参考書2

書名	スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル
著者名	吉原恵子ほか著
出版社	実教出版
出版年	2017
ISBN	978-4407340617
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
----------	--

専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB1404	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T(情報)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	米山 一樹, 古宮 嘉那子, 原口 春海, 小澤 佑介, 高橋 竜一, 新任教員				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

情報工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性が身に着いている。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤が身に着いている。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤が身に着いている。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任
(ラウンドロビン) グループに分かれて口頭による自己紹介
- 第2回：高校から大学への「学びの転換」
(ディスカッション) 学外での学修(留学、インターンシップ、ボランティア等)をどう活用するか
- 第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
(ディスカッション、映像活用学習) 効果的なプレゼンテーションについて
- 第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
(ディスカッション、ピアエディティング) 卒業論文のテーマを考える
- 第5回：図書館の活用
(ディスカッション) 第3回、第4回の振り返り
- 第6回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)
(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする
- 第7回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)
(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする
- 第8回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)
(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする
- 第9回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)

(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする
第10回：第1回テーマ(調査、議論、報告、発表)
(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする
第11回：第2回テーマ(調査、議論、報告、発表)
(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする
第12回：第2回テーマ(調査、議論、報告、発表)
(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする
第13回：第2回テーマ(調査、議論、報告、発表)
(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする
第14回：第2回テーマ(調査、議論、報告、発表)
(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする
第15回：第2回テーマ(調査、議論、報告、発表)
(ディスカッション) 与えられた題材について調べ、プレゼンする

【授業外学修】

- (1) テーマの発表においては、スムーズかつ指定された時間内で行うための十分な発表練習を行っておくこと。
- (2) 各自、計画的な情報収集・調査を心がけ、発表する内容を吟味し、プレゼンテーションのリハーサルを十分に行ったうえで授業にのぞむこと。
- (3) 情報収集・調査に際しては、図書館やインターネットの信頼性のあるサイトなどを活用すること。

履修上の注意/Notes

- ・グループディスカッション、グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。
- ・オフィスアワー：金曜日授業終了後
- ・遅刻の取り扱い：正当な理由のない遅刻は原則として認めない。

情報端末の活用

- ・テーマの調査や資料作成、発表などで使用するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。
- ・課題やレポートの提出が求められた場合は、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：大学における学びの基本を十分に修得し、さらに主体性を持ってテーマ発表に取り組んでいる。
- A：大学における学びの基本を修得し、さらに主体性を持ってテーマ発表に取り組んでいる。
- B：大学における学びの基本を概ね修得し、さらに主体性を持ってテーマ発表に取り組んでいる。
- C：大学における学びの基本について最低限の修得をしており、さらに主体性を持ってテーマ発表に取り組んでいる。
- D：大学における学びの基本が修得できておらず、さらに主体性を持ってテーマ発表に取り組んでいない。

成績の評価方法/Grading

- ①授業中の発言や授業外の質問等(20%)、②教育目標、カリキュラムなどへの理解を示すレポート等(20%)、③議論の様子、グループでの報告(20%)、④レポートで適切な情報を収集し引用、考察ができていないか(20%)、⑤プレゼンテーション(20%)

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：「茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう-」 参考書：①「スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル-」吉原恵子、他著、実教出版、定価1,200円 ②「大学 学びのことはじめ - 初年次セミナーワークブック-」佐藤智明、他著、ナカニシヤ出版、定価1,900円 ③「知へのステップ - 大学生からのスタディ・スキルズ -」上村和美、他著、くろしお出版、定価1,800円
----	--

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB1405	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T(都市)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	小林 薫				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

都市システム工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることをめざす。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活, 主体的な学修, 知識・技能, 思考力, 判断力, 表現力, キャリア, グローバル化, レポート作成, 発表, グループディスカッション, グループワーク

到達目標/Learning Objectives

- ・自律的な学生生活を行う意欲と主体性を身につける。
- ・自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤を身につける。
- ・協働的な課題解決のためのコミュニケーション力, 思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回:【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入:大学という学修・生活環境における自由と責任(1年生クラス担任:以下,担任と記す),ディスカッション+「ミニツッパーパー」テーマ:「大学生と高校生の違いは?」

【授業外学修】教科書:茨城大学での学修の手引き-「大学入門ゼミ」から始めよう-の第1章について確認しておくこと。

第2回:【授業内容】高校から大学への「学びの転換」(担任),ディスカッションテーマ「高度技術者への履修計画について」

【授業外学修】教科書:茨城大学での学修の手引き-「大学入門ゼミ」から始めよう-の第2章について確認しておくこと。

第3回:【授業内容】「聞く」,「話す」に関する技法と作法(担任),ディスカッションテーマ「効果的なディスカッション・プレゼンテーションについて」

【授業外学修】教科書:茨城大学での学修の手引き-「大学入門ゼミ」から始めよう-の第3章について確認しておくこと。

第4回:【授業内容】「読む」,「書く」に関する技法と作法(担任),ディスカッションテーマ「オリジナリティーのあるレポート作成について」

【授業外学修】教科書:茨城大学での学修の手引き-「大学入門ゼミ」から始めよう-の第4章について確認しておくこと。

第5回:【授業内容】図書館の活用(担任),ディスカッションテーマ「レポート作成と情報収集について」*注)なお,図書館の都合により日程変更になる可能性がある。

【授業外学修】教科書：茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－の第5章について確認しておくこと。

第6回：【授業内容】大学院への進学（担任），ディスカッションテーマ「大学院への進学について」

【授業外学修】茨城大学大学院への進学について，配布資料・ノートなどを確認しておくこと。

第7回－第8回：【授業内容】茨城県水戸市の魅力を知ろう!!（担任），教員が水戸市内の社会基盤紹介と共に，図書館などを活用して，茨城県内の行ったところ，行ってみたいところを調査してみよう。「グループディスカッション」（グループワーク）の実施

【授業外学修】観光パンフレットなどを確認しておくこと。また，現地踏査・現地調査などで，行ったところや行ってみたいところなどを確認するのも良い。

第9回：【授業内容】茨城県水戸市の魅力を知ろう!! 成果発表会を実施する。プレゼンテーション「グループ成果発表」

【授業外学修】グループ発表は，事前にグループで話し合っておくこと。

第10回目：【授業内容】都市システム工学科で学ぶ技術で何ができるでしょうか？（担任＋社会基盤系関係教員）

「社会基盤分野」における研究課題の説明，「グループディスカッション」（グループワーク）と個別レポート作成準備の実施

【授業外学修】研究課題を踏まえ，第10回の授業内でディスカッションした内容についてグループワークを行う。

第11回目：【授業内容】都市システム工学科で学ぶ技術で何ができるでしょうか？（担任＋社会基盤系関係教員）

「社会基盤分野」における研究課題に関する「グループディスカッション」（グループワーク）と個別レポート作成実施

【授業外学修】研究課題を踏まえ，第11回の授業内でディスカッションした内容についてグループワークを行う。

第12回目：【授業内容】都市システム工学科で学ぶ技術で何ができるでしょうか？（担任＋建築系関係教員）

「建築分野」における研究課題の説明，「グループディスカッション」（グループワーク）と個別レポート作成準備の実施

【授業外学修】研究課題を踏まえ，第12回の授業内でディスカッションした内容についてグループワークを行う。

第13回目：【授業内容】都市システム工学科で学ぶ技術で何ができるでしょうか？（担任＋建築系関係教員）

「建築分野」における研究課題に関する「グループディスカッション」（グループワーク）と個別レポート作成実施

【授業外学修】研究課題を踏まえ，第13回の授業内でディスカッションした内容についてグループワークを行う。

第14回目：【授業内容】第1回成果発表会（前半）を実施する。

プレゼンテーション「グループ成果発表」，レポート「個人成果発表」

【授業外学修】グループ発表は，事前にグループで話し合っておくこと。教科書：茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－の第3章 3.および第4章 3.について再確認しておくこと。

第15回目：【授業内容】第2回成果発表会（後半）を実施する。

プレゼンテーション「グループ成果発表」，レポート「個人成果発表」

【授業外学修】グループ発表は，事前にグループで話し合っておくこと。教科書：茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－の第3章 3.および第4章 3.について再確認しておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

第7回～第15回については，それまでの学修内容を踏まえた課題に対し，グループ・ディスカッション，発表を行う。

履修上の注意/Notes

グループディスカッション，グループワークなどコミュニケーションを主体とするアクティブ・ラーニングに積極的に取り組むこと。本ゼミの担当教員は1年生クラス担任である(※)。本ゼミに関するゼミ時間外の相談は，1年生クラス担任にすること。オフィスアワーを含め具体的な相談方法の説明はガイダンス時に1年生クラス担任が行う。

情報端末の活用

授業内でPCを使用する。例えば，授業内の情報収集やプレゼンテーション資料の作成など

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A : 到達目標の3点について高いレベルで達成されている。
B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C : 到達目標の3点について最低限のレベルで達成されている。
D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した「ディスカッション」や「ミニツツペーパー」(20%)、②課題レポート(40%)、③2回のプレゼンテーション(20%+20%)により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目を、ガイダンス時に配布するルーブリック(注※)で評価する。※ルーブリックについては教科書を参照してください。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	茨城大学での学修の手引き - 「大学入門ゼミ」から始めよう -
著者名	
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル -
著者名	吉原恵子, 他
出版社	実教出版
出版年	
ISBN	
教材費	1200

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ - 初年次セミナーワークブック -
著者名	佐藤智明, 他
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	
ISBN	
教材費	1900

参考書3

書名	知へのステップ - 大学生からのスタディ・スキルズ -
著者名	上村和美, 他

出版社	くろしお出版
出版年	
ISBN	
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

・建設現場および設計技術者としての経験がある教員（担任）が、その経験を活かして、都市システム工学科で学ぶ具体的な主要技術の活用方法などについて、実務家としての視点で第10回～第15回については講義、コメントなどを行う。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0101	ナンバリング	KB-SMI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木6	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス、Bコース)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	大学入門ゼミ				
担当教員(ローマ字表記)	竹田 晃人				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

機械システム工学ゼミナール

授業の概要/Course Overview

この授業では、茨城大学での学修への導入を図る。すなわち、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・知能を知り、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけることを目指す。さらに、今後のキャリア・グローバル教育との関連性を意識づける。そのために、学生自らが調べる活動および学生間のグループディスカッション等を取り入れて授業を行う。

キーワード/Keyword(s)

自律的・意欲的な学生生活、主体的な学修、知識・技能、思考力、判断力、表現力、キャリア、グローバル化、調査活動、グループディスカッション

到達目標/Learning Objectives

- ①自律的な学生生活を、主体性に行うことができる。
- ②自らの専門分野(学部・学科等)に関する幅広い知識を俯瞰的に理解できる。
- ③コミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身に付け、協働的な課題解決ができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入(自己紹介を含む)、大学という学修・生活環境における自由と責任
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第2回：高校から大学への「学びの転換」
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第3回：「聞く」、「話す」に関する技法と作法
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第4回：「読む」、「書く」に関する技法と作法
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第5回：図書館の活用
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 課題に対するグループ討議を行ってまとめる。
- 第6回：エネルギー機械技術(1、講義、課題提示)
- 第7回：エネルギー機械技術(2、講義に関するグループ討議)
(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。
- 第8回：エネルギー機械技術(3、討議結果の発表と質疑応答)
(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。
- 第9回：設計製造技術(1、講義、課題提示)
- 第10回：設計製造技術(2、講義に関するグループ討議)

(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対してグループ討議を行う。

第11回：設計製造技術（3、討議結果の発表と質疑応答）

(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。

第12回：情報機械技術（1、講義、課題提示）

第13回：情報機械技術（2、講義に関するグループ討議）

(グループディスカッション：ラウンドロビン) 講義で与えられた課題に対しグループ討議を行う。

第14回：情報機械技術（3、討議結果の発表と質疑応答）

(プレゼンテーション) グループ討議の結果をまとめてプレゼンテーションを行う。

第15回：なるほど技術者講演会（企業講師による講義、業務・研究開発内容等の紹介）

【授業外学修】

[第1～5回の全学共通部分について] 教科書・参考書を読み大学生として必要なスタディスキルとはどのようなものか予習する。授業中に行ったアクティブ・ラーニングの内容を授業後にラーニング・コモンズなどを利用してさらに深める。学生同士で情報を共有しながらディカッションすることが復習となる。復習内容は必ず文書としてまとめておくこと。

[第6回以降の後半部分の講義について] 事前に関連キーワードを調査しておくことと理解しやすい。講義に関するグループ討議については、課題内容を理解して十分な調査を行い、自らの考えをまとめてから臨むこと。討議結果の発表と質疑応答のプレゼンテーションでは、前週の討議の結果をまとめてから資料を作成し、発表練習を行って時間内での分かりやすい発表を心がける。また提出課題やレポートには真剣に取り組むこと。

履修上の注意/Notes

後半部分の同じテーマの講義、グループ討議、発表および質疑応答は、一連の流れで進行するため、欠席するとその前後の授業内容を理解できない。またグループ討議、発表資料作成などには積極的に参加すること。30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

オフィス・アワー：本講義の開始前および火曜15:00-17:00。ただし教員は普段日立キャンパスにいますので、教員の空き時間には面談が可能である。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 茨城大学生として今後学修を行う上での基礎知識を十分に修得し、かつ知識を活用する方法を理解している。

A : 茨城大学生として今後学修を行う上での基礎知識を修得し、かつ知識を活用する方法を理解している。

B : 茨城大学生として今後学修を行う上での基礎知識を概ね修得し、かつ知識を活用する方法を理解している。

C : 茨城大学生として今後学修を行う上での基礎知識の最低限の修得をしており、かつ知識を活用する方法を理解している。

D : 茨城大学生として今後学修を行う上での基礎知識を修得できていない、または知識を活用する方法を理解していない。

成績の評価方法/Grading

期末試験は実施しない。評価は ①授業時のディスカッションへの取り組みを記載した議事録などの資料（8回程度）（50%）、②課題レポート（1回）（20%）、③プレゼンテーション（3回）（30%）により行う。ディプロマポリシーに対応する到達目標の3項目をルーブリックで評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「茨城大学での学修の手引きー「大学入門ゼミ」から始めようー」
著者名	茨城大学全学教育機構

出版社	
出版年	2018
ISBN	
教材費	

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	スタディスキルズ・トレーニング-大学で学ぶための25のスキル-
著者名	吉原恵子、ほか
出版社	実教出版
出版年	2011
ISBN	
教材費	1296

参考書2

書名	大学 学びのことはじめ-初年次セミナーワークブック
著者名	佐藤智明、ほか
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2014
ISBN	
教材費	2052

参考書3

書名	知へのステップ 第4版 -大学生からのスタディ・スキルズ-
著者名	学習技術研究会
出版社	くろしお出版
出版年	2015
ISBN	
教材費	1944

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

第15回の「なるほど技術者講演会」では、企業講師による講義および業務・研究開発内容等の紹介が行われる。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------